

No.31 國安 孝昌 「Stack in Frame」

Takamasa Kuniyasu

北川フラムさんのコラム / 1998 (平成 10) 年 2 月 1 日付 立川市市報記事より

國安孝昌は自分で焼いた煉瓦^{れんが}を重ねていって、ダイナミックな造形をする作家だ。ファーレ立川では、北のはずれにあるごみ集積所を選んで、そこにゲートをつくろうとした。街の北東に、煉瓦と木（実際は都市の防災上ステンレスで作った）と鉄のアーチを組み合わせた作品は、この街の玄関になっている。

煉瓦をひとつずつ焼き、それを重ねていくという行為は、昔の大工さんの仕事と似ている。その初源的な行為と、土と木という材質のやわらかさで、力強い空間を作る氏の仕事は、今までの美術作品にはなかったもので、新鮮な驚きをもって人に親しまれている。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現 : UR 都市機構) 「ミニ通信」より

作品<Stack in Frame>の覚書き

規制や制約の枠から逃れる事が、アートの有効な方法になることが自明になってしまったとき、都市の再開発空間における様々な条件の中で仕事をする事は、かえって冒険の一つになる。少なくとも窮屈さの困難の中で何ができるかが、作り手として精神の冒険で私にはあった。いつもの私とは逆のベクトルで形作ることが今回の挑戦である。

目立たぬこと。主張しないこと。さりげないこと。普通であること。

しかし 道行く人々の街の記憶の欠けらとして「アァ~あそこにナニか在ったな」と確かに思わせるようなものであること。